

令和2年度第2回 大野市水循環・湧水文化再生推進連絡協議会議事概要

日 時：令和2年11月20日(金)
午後2時00分～午後3時40分
場 所：大野市役所2階 大会議室

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 協議事項

大野市水循環基本計画原案について

○作成中の計画原案について、前回会議からの主な変更点について事務局から説明

【主な質疑・意見】

- 赤根川の改修に関する施策の記述について齟齬があるため再検討したい。
- 評価指標となっている「ハザードマップの周知率」の達成に向けたスケジュールの想定はどのようになっているか。
- 各施策の語尾の記述について、策定主体である大野市以外が主に行う施策についても「実施します」「検討します」と記載されている。将来、協議会が策定主体となることを見据え、その過渡期であるならば、それが分かるような前向きな文章を追加してはどうか。
- 計画の主体に関し、市の説明は国の水循環基本計画改定版の趣旨をよくご理解いただいている。
- 序文を追加し、大野市として計画を策定する背景や経緯、さらに将来的には流域の関係者が参画した流域水循環協議会で計画を推進していく考えがあることを明記した方がよい。他の自治体の参考にもなる。
- 水道水質・地下水質について、将来的には大野独自の水質基準を設けるといった文言が入るといい。
- 河川水質について現場で長年調査をしているが非常にきれいである。大野市として独自性を出し、更に厳しい基準を設けて運用してはどうか。
- 実施主体の整理について、研究機関が関わる項目について明記されたので、研究機関としてどういった協力ができるか検討していきたい。
- 今後地球温暖化が徐々に進み、雨や雪の降り方が極端になるとともに、長期的に見れば降水量は減少傾向になる。「渇水や少雪時などの対応策として、ダム、河川、地下水帯を有機的につなげ、有効利用する方策を探っていく」といったことを計画に盛り込んでほしい。
- 田んぼダムについて、水はけの悪い水田で継続するとぬかるみ、機械が入れなくなるため、営農上、協力できない水田もあることを承知いただきたい。
- 地下水位の傾向の変化の理由について記述があるが、他にも気候的要因や節水意識の向上なども考えられるので、記載の補足を願いたい。

○水利権について市は介入できないのか。

○雨水の利用について記述があるが、具体的にはどのようなことを考えているのか。

4. その他

今後の予定について

○パブリックコメントの実施予定など、今後の予定について事務局から説明

5. 閉会